

平成 30 年 11 月 21 日

ケースメソッドⅢ 安立先生

金銭の使い道及び貯金額・個人の価値観

・ A16CB009 ・ A16CB045

・ A16CB079 ・ A16CB100

問題と目的

飲み会やサークル、お洒落や食費など何かと出費が多い大学生活の中、少ない収入で周りの大学生はどのようにやりくりしているのだろうと疑問に思ったことはないだろうか。

今回女子大生の金銭感覚について疑問に思い、お金にまつわる意識や認識について考えてみた。

方法

調査協力者：ケースⅢ(安立先生)の授業を履修している女子大学生のうち 7 名(A~G さん)を対象に調査を行った。

調査日時・場所：平成 30 年 10 月 10 日 13 : 35~14 : 35、10 月 17 日 13 : 35~13 : 50 に日進キャンパス 2-111 教室にて実施した。

面接法：半構造化面接を行った。あらかじめ決められた質問項目は以下の 7 つである。

1. あなたは月にどのくらいの金額を使っていますか。また、何に使うか、それにお金を費やしたときどのような気持ちになりますか。
2. あなたは友人と遊ぶ場合と一人で買い物に出かける場合において、1 日に使う平均金額はどのくらいですか。また、それは平日と休日では異なりますか。そして、それはなぜですか。
3. 1 週間の買い物で自分に使える金額の限度額とその理由を教えてください。
4. あなたは財布にいくら以上入っていたら安心しますか。いくら以下で不安に感じますか。また、その理由を教えてください。
5. 現在あなたは貯金をしていますか、していませんか。また貯金している方は何のためにしていますか。貯金をしていない方はそれをしない理由を教えてください。
6. あなたが自分のお金で口座に残しておきたい最低金額はどのくらいですか。また、その理由を教えてください。
7. 以上のお金に関する質問をされてあなたはどのような気持ちになりましたか。

分析方法：各質問項目のうち質問 1・2・3・4・5・6 の理由と、質問 7 をラベル化し、K J 法で分析を行った。それ以外の金額等は集計し表にまとめた。

結果と考察

質問1：月に使用する金額は4万円以下と回答した人が2人、5万円以上と回答した人が5人であった。その金額を何に使用するかについて、最も割合が多かったのは衣服と食事であり、友人との遊び、交通費、携帯費、家賃と順に続いた。以上の結果より、大学生は決められた服が無く、毎日異なる服を着るため衣服や、大学生活における多様な交友関係により友人と出かける際にはご飯を食べに行くことが予想され食事に掛ける金額が高いため、1ヶ月に使用する金額が5万円以上と回答した人の割合が多いのではないかと考える。そして、これらにお金を使用した時の気持ちをラベル分けし表にまとめた(表1)。

表1.お金を費やした時の気持ち

ポジティブ	嬉しい	幸せな気持ち(B)
		幸福(D)
		幸せ(F)
	充実感	ストレス発散(A)
		頑張って良かった(B)
		充実感(F)
ニュートラル	仕方なく	人に合わせる(D)
		定期券仕方がない(E)
ニュートラル	気にならない	遊びは気にならない(E)
ネガティブ	悲しい	出費(D)
		購入(D)
		ゲームは罪悪感(E)
		肩を落とす(F)
	後悔	後悔する(B)
		後悔(D)
	使命感	働く(C)
		たくさん使う友達(D)
		使わないといけない(D)
	嫌悪感	端数を払ってもらいたくない(G)
		中途半端なのが嫌(G)

表1より、ポジティブ・ニュートラル・ネガティブの3種類に分類したところネガティブの感情の意見が最も多かった。中でも、喪失感や後悔といった意見が多く見られた。一方で、ポジティブの感情の意見では、充実感を感じられたといった声が挙がり、ニュートラルでは、自分で稼いだお金が消えるのは仕方がないことだという割り切った考えの意見が見られた。自己投資をする上で、心に充実感を得られる傍ら頑張って稼いだお金が簡単

に消えていくことへの喪失感を感じる人が多いのではないかと考えた。

質問 2 : 友人と遊ぶ場合と一人で買い物に行く場合の金額の違いをまとめた (図 2-1)。

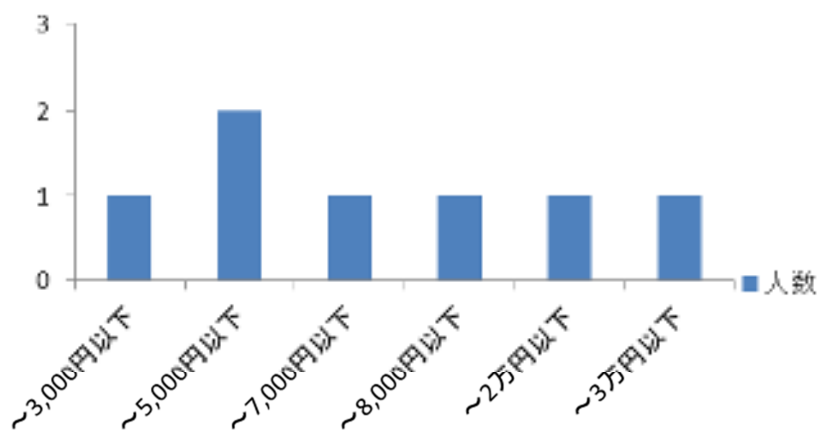


図2-1: 友人と遊ぶ場合の出費金額

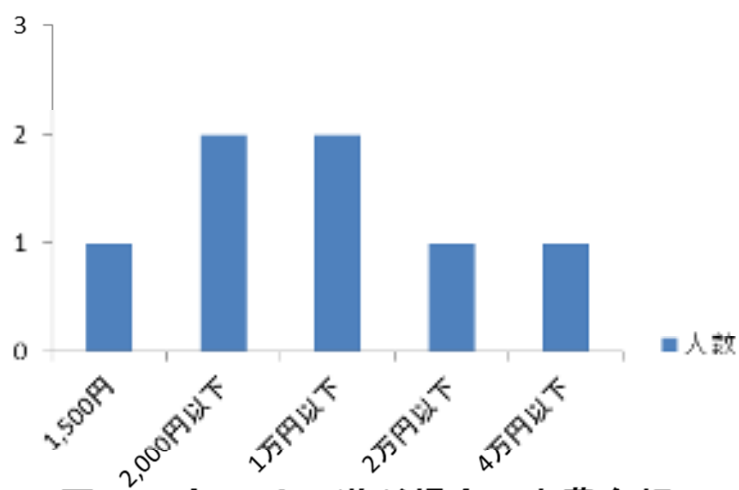


図2-1': 一人で遊ぶ場合の出費金額

図 2-1 より、友人と遊ぶときに多くお金を使う人と、一人で買い物に行くときに多くお金を使う人の 2 種類に分かれた。よって友人と遊ぶ場合、または一人で買い物に行く場合で使う平均金額は人によることから大きな違いはないと考えられる。

次に平日と休日で異なるか異ならないかについて図にまとめた（図 2-2）。

図2-2: 平日と休日で出費に異なりがあるか

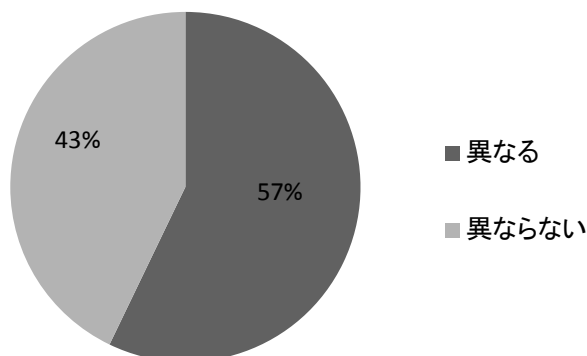


図 2-2 より、平日と休日で異なる人が全体の 57%、異なるない人が 43%であることが分かった。また、その理由については、K J 法によるラベルわけより、異なる理由として、平日は学校があり長時間遊ぶことが少なく、遠出もないことが分かった。異なるない理由としては、平日と休日は同じ 1 日なのでやることに差はなく遊びに行くなら同じであることが挙げられた。

予想していたより、異なるない人が多く、意外性を感じた。

質問 3 : 一週間の買い物で自分に使える金額の限度とその理由をまとめた。限度額を 1 万円と答えた人は 3 人で、2 万円以下は 5 人、2 万円が 2 人、3 万円は 1 人、3 万円以上は 2 人で、5 万円は 1 人であった。理由を KJ 法でまとめた結果、2 つのカテゴリーに分けられた。好きなことに使ってストレス発散になるというポジティブな感情と、お金が減るといふ恐怖または不安というネガティブな感情に分けられるということがわかった。よって、買い物をする際の限度額は人それぞれで、限度額が高い人はポジティブな感情を持つ人が多いと考えられる。

質問4：財布の中身がいくら以下で不安になるかの集計結果を図4-1に表示した。

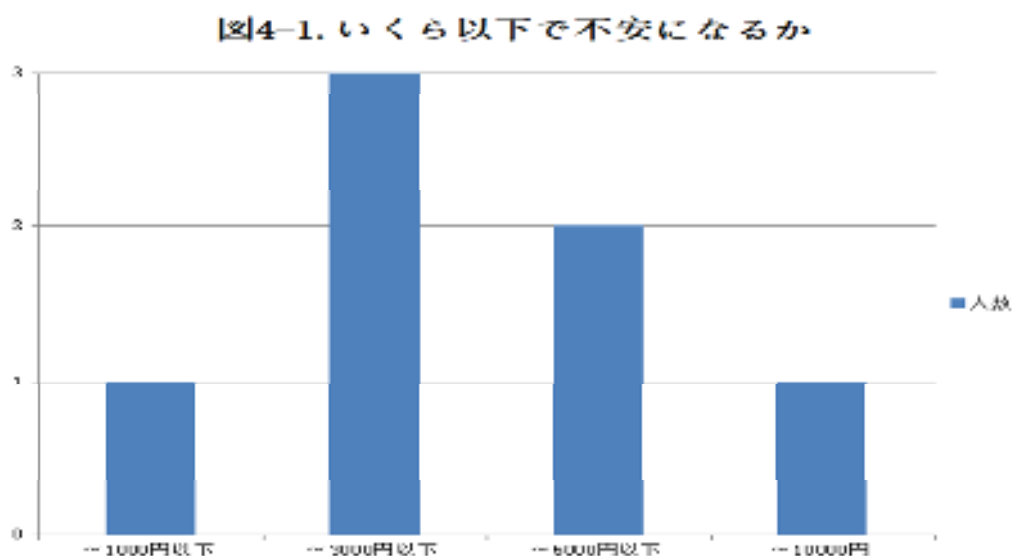


図4-1から、1000円～3000円が3名で一番多いことがわかる。1000円以下であったり、5000円から10000円の人はい少ないことが読み取れる。また、理由としていざというとき対応できない、3000円あれば家に帰ることができるなど挙げられた。

よって、小銭だけだと何かあったときに対応できないが3000円～5000円あれば何かあったときどうにか対応できると考えている人が多いことが分かった。

次にいくら以上で安心するかという問いに関する集計結果を図4-2にまとめた。

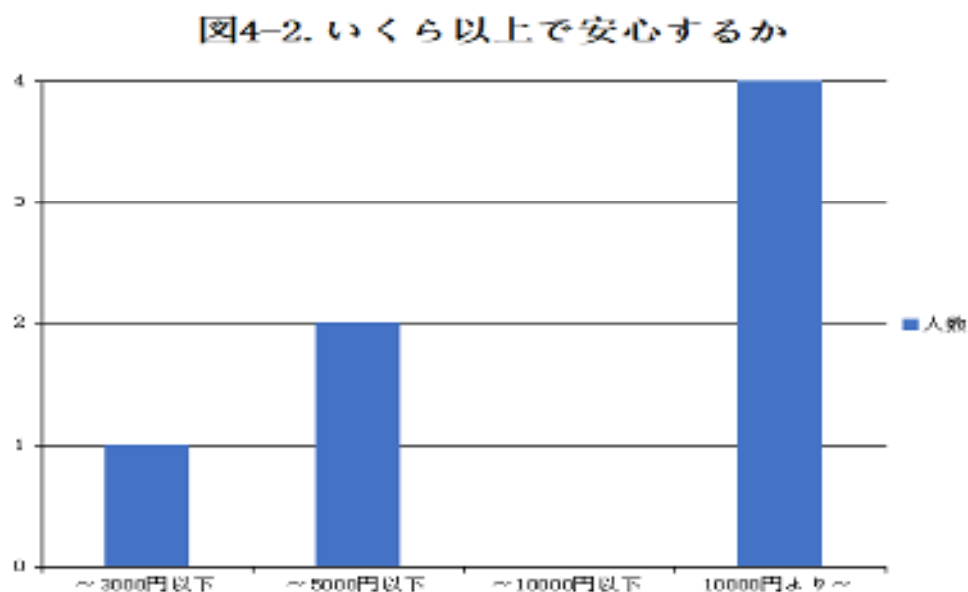


図4-2より、大多数の人が3000円以上で安心と回答した。7名中4名が10000円以上

と回答した。

よって安心する金額は不安になる金額と比べて大きいあまり変化のない人もいることが読みとれる。調査対象者が大学生だったことが大きく関係しているのではないかと考える。大学生はアルバイトをしている人が多く、大金を所持することが少ない為ではないかと考える。

質問5：現在貯金しているかしていないかについて図に示した（図5）。

図5-1.現在の貯金状態

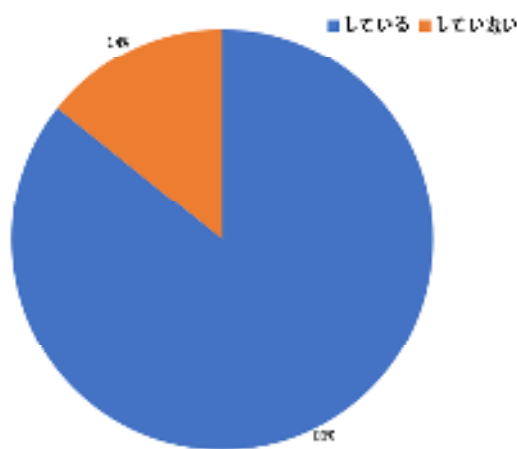


図5より貯金をしている人は全体の80%、貯金をしていない人は14%という結果になった。またその理由をラベル分けした結果を表5にまとめた。

表5より「心の気休め」「貯金していると安心」といった安心の感情や、「自分のため」「生きていくため」「必要だから」といった責任の強い感情が得られた。「将来のため」「卒業旅行のため」「就職後のため」といった将来のために貯金していると応えた人も多かった。貯金をしていない人は「貯金は厳しい」「通帳ゼロ」「少ない」といったマイナスな感情がみられた。

よって貯金をしている人は、卒業後や就職後など将来を見据えて貯金をしており、貯金することにプラスの感情を持っていると考えられる。反対に、貯金をしていない人は貯金することに劣等感などのネガ

表5. 貯金をするまたはしない理由

ポジティブ	安心	貯金していると安心(E)
		心の気休め(E)
	希望	将来のため(A,B,E)
		卒業旅行のため(G)
		就職後のため(B)
	快樂	車のため(A)
		遊びのため(E)
	責任	生きていくため(C)
		必要だから(C,F)
緊急の時に(F)		
ネガティブ	劣等感	貯金は厳しい(D)

ティブな感情を持っていることが分かる。

質問6： 口座に残しておきたい最低金額とその理由をまとめた（図6）

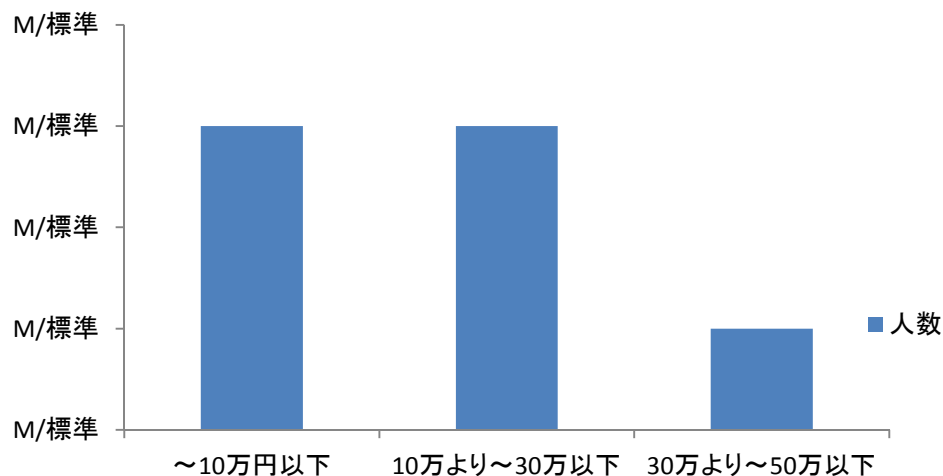


図6：口座に残しておきたい最低金額

図6より、10万円以下と答えた人は3人、10万円より30万円以下は3人、30万円より50万円以下は1人であった。その理由は、10万円以下を残しておけば十分に遊ぶことができるという理由であった。10万円より30万円以下と答えた人は、10万円以下だと桁が変わってしまうということと、貯金することに時間がかかる金額だからという理由であった。30万円より50万円以下の人は、大金の物を購入するために貯金をしているという理由であった。30万円以下の金額を貯金している人が多く、30万円以上の金額を貯金している人が少ないということがわかった。よって、何かのために貯金することになると貯金額は大金になるということがわかった。

質問7：お金の質問をされてどのような気持ちになったかという問いに対して、ラベル分けを表にまとめた。

ポジティブ	客観的	服にお金を使っている(A)
		客観的(C)
		色々考えた(D)
		見直す(F)
		考える(F)
		客観的に自分を見れた(G)
		細々していることに気が付けた(G)
	楽観的	楽しい(A)
		大切にしよう(A)
		新鮮な気持ち(G)
	興味	他人(C)
		金銭事情(C)
		気になる(C)
		金銭感覚(C)
		価値観(C)
		使い道(C)
	ニュートラル	考えていない(E)
		異なる(F)
割合(F)		
考えたことなかった(G)		
ネガティブ	不安感	不安になった(B)
		減っていく(B)
		不安(C)
	嫌悪感	嫌な気持ち(D)

ポジティブ・ニュートラル・ネガティブの3種類に分類したところ、圧倒的にポジティブな感情の意見が多かった。それは、お金の質問をされたことにより自分のお金の使い道を見直すことができたという自分を客観的に見つめ直すことができたというものであった。また、他人の金銭事情やお金に関する価値観についても知りたいという興味の意見も挙げられた。ニュートラルな感情の意見では、お金について何も考えたことが無かったであり、ネガティブでは、自分のお金の使い方や将来に向けての不安感が増したという声が挙げられた。金銭に関する質問は、比較的触れられたくない部分であると考えていたため、ポジティブな意見が多く見られたことは予想外であった。

総合考察

今回の調査より、お金のある人ほど貯金をしていることが分かった。この結果より、お金のある人はアルバイトをしていると考え、計画的にアルバイトをし、計画を立てて遊びなどにお金を使っている人が多いのではないかと考える。貯金をしている人ほど、休日と平日に使うお金の差はないことが分かったことから、平日だから、休日だからと分けて考えている人は少なく、お金を使うときは使い、抑える時は抑える、とめりはりをつけている人が多いのではないかと推測するため、計画的な人が多いのではないかと考えられる。

今後の課題

今回の調査では質問紙法のような調査になってしまい、面接法のラベル分けによる分析ができなかったことが大きな課題である。また、調査者の人数が少なく、時間が足りず分析が不十分であったことも問題点として挙げられる。今後は調査方法に合った調査内容を考え調査をしていくとともに、人数を確保し分析の時間を確保していきたい。